



企業プロフィール

- 設立：1953年
- 事業内容：製薬・ヘルスケア
- 従業員数：3,760名
- 年次有給休暇の取得率：66%
- 年間休日数：124日
- URL：http://glaxosmithkline.co.jp

ボランティア休暇（オレンジデー）



社会と関わるための
休暇制度

年に1日のボランティア休暇制度が 地域貢献とチームワークの高揚につながる

ポイント

- ① 社会貢献プロジェクトチームが休暇取得を奨励
- ② 3人に1人がボランティア休暇を取得

グラクソ・スミスクライン株式会社は、英国の製薬企業グラクソ・スミスクライン・グループの日本法人として1953年に創業以来、医療用医薬品、一般用医薬品、オーラルケア製品の研究開発、製造、販売事業を展開してきた。「生きる喜びを、もっと」を使命に掲げ、社員の社会貢献活動の積極的参加を奨励する中で、企業カラーにちなんで、オレンジデーと銘打ったボランティア休暇を、一人でも多くの社員が取得することを目指している。幅広い部門からメンバーが結集した「社会貢献プロジェクトチーム」が牽引する同社の休暇制度の概要を、コミュニケーション部門社会貢献プログラム・コーディネーターの橋本真友子さんと、人事企画部マネージャーの小口浩一郎さんに伺った。

2009年にボランティア休暇を導入

当社では2009年にボランティア休暇（以下、オレンジデー）を導入しました。これは有給の特別休暇として毎年全社員に1日ずつ与えられるものですが、単に制度を設けただけでなく、実際に社員の背中を押して休暇を取得させる仕組みを、全社的に構築したことに、大きな特徴があります。具体的には、会社として推薦できるボランティアをNPOとのパートナーシップで

提案し、メールやイントラネットを通じて休暇取得を呼びかけるというものです。

ボランティアに参加したことがない社員の場合、一人で挑戦する勇気が出ず、取得を諦めてしまう現状があったため、日頃一緒に仕事をしている仲間たちで一緒に取得すればチームビルディングにもつながるのではないかと考え、チーム参加を提唱しました。また、仕事のチームでボランティアに参加することで、従来とは違った形でのリーダーシップの醸成も可能ではない

かという期待もありました。事実、普段は控え目な社員がボランティアの場で強力なリーダーシップを発揮したという話も聞いています。

まず積極的に取り組んだのが工場（栃木県日光市）でした。地域貢献を掲げる工場としては、オレンジデーをまとまって取ることで地域に密着した社会貢献が展開できるのではないかと考えました。

例えば工場では全員に呼びかけ、その結果一斉にオレンジデーを取得し、総出で地元の日光杉並木の清掃を実施しました。もちろん、その間、すべての機械をストップさせます。今年も400人が一斉に休暇を取って杉並木の清掃などを実施しました。また、ボランティアの日に合わせてレクリエーションも企画、清掃後に懇親の場を設けることで社員のコミュニケーションを図ることに一役買っています。

社会貢献プロジェクトチーム誕生

2009年にオレンジデー取得者は全社員の10%にも満たなかったものが、6年目の2014年には45%の社員が取得しました。2011年3月の東日本大震災の際には社長自らが陣頭指揮を取って被災地の支援に取り組み、社員ボランティアチームが発足、震災復興に向けての地道な行動を継続しています。

翌2012年に全社からメンバーを募集した社会貢献プロジェクトチームが発足し、医療支援、被災地支援、教育支援、環境整備という4つの観点から、地域に密着



小口マネージャーと橋本さん

したボランティア活動を模索してきました。現在17名ほどのメンバーが社会貢献プロジェクトチームに名を連ねていますが、幅広い分野から人材が結集しています。オレンジデーが導入されて6年経過しますが、社会貢献プロジェクトチームの活動により、取得者が年々増大しています。

具体的な活動例として、遠方から病院に入院を余儀なくされる子ども達のご家族を支援するためのボランティア活動も実施しています。NPOの宿泊施設では安く宿泊できますが、食事は自炊となります。そこで、疲れた心身を癒してもらおうと、施設を利用するご家族に温かい食事や宿泊施設の清掃を申し出て、ご家族からは掃除の行き届いた部屋で休めることなどに対し感謝のメッセージを頂きました。私たちの使命は製品を通じて生活の質を向上させていくことですが、社員が直接的に体と時間を使って地域や社会へ貢献することも重要なミッションです。年に1日、社員全員がオレンジデーを必ず取得することを目標として高く掲げ、その実現のために社会貢献プロジェクトチームの英知を集め、休暇が取りやすい土壌の構築を目指しています。

休暇制度
利用者の声

2011年の東日本大震災を機にさまざまなボランティアに参加していますが、2014年からはチームのメンバーと参加するようになりました。ボランティア活動そのものも非常に貴重な経験となりますが、何よりも活動を通じてチーム員とのコミュニケーションが増すことで通常の業務が円滑に行え、かつ、私のチームマネジメントのテーマにしている「Team Build（チームワーク強化）」に大きくつながります。また、社内

の他部署の方との交流で社内の組織の全体像を見ることにもつながりますし、社外の異業種の方との交流で視野も広がります。今回のサマーキャンプでは特に難病のお子様をお持ちの御両親の前向きな姿勢には参加した全員が感銘を受けました（左上写真）。来年も同じメンバーに加えてさらに仲間を募り参加する予定です。

（東関東リージョン営業統括 呼吸器領域営業
千葉エリア責任者 林隆玄さん）